

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H22 入学	71.5			60.2		
現 5年	(1.06)			(1.01)		
H21 入学	59.0	73.3	55.7	63.6	77.8	57.3
現 6年	(0.99)	(1.00)	(1.02)	(0.95)	(1.00)	(1.00)
H26 正答率の全国平均		72.9	55.5		78.1	58.2

5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較

(2)意識調査から読み取れる実態

<生活習慣>

朝食については、「食べている」「どちらかと言えば食べている」と答えた児童が99%である。睡眠については、寝る時刻が一定していない児童が20%いる。また、ゲームを1時間以上している児童が47%、メールやインターネットを1時間以上している児童が17%いる。ゲームやネット等により生活が不規則になっている傾向が見られる。

<学習習慣>

読書に1日30分以上親しむ児童が43%、宿題があまりできていない児童が9.8%、授業の復習に取り組んでいる児童が57%いる。家庭学習の充実が少しずつ進んでいる。

<授業での学び方>

「調べ活動があまりできていない」と感じる児童が38%いる。「話し合う活動を良く行えた」と答えた児童が88%いる反面「自分の考えを発表する機会があまり与えられていない」と感じる児童が21%いる。また、「自分の考えを深めたり広げたりすることができて」と感じる児童は65%であった。学習形態（一人学習・グループ学習・全体学習）等の工夫を通して、児童一人一人の達成感を高めながら思考力・表現力を育成していく必要がある。

2 取り組み状況

(1)H25年度の取組に対するH26年度の調査結果と課題

<取組>

- ・4年生以上に月に1～2時間の学力向上タイムを設定し、B問題に取り組むグループと基本問題に取り組むグループに分け全職員で指導していった。
- ・各学年毎に「家庭学習の手引き」を作成し、全職員に配布した。自学ノートの紹介コーナーを設け、良く取り組んでいる児童の作品の紹介等を行った。

<結果と課題>

・国語科における表現力(書く能力)の向上が進んでおり、全国通過率を上回ることができている。また、無回答率も全国を下まわっている。根拠をもとに考えをまとめさせたり、ノート指導の充実を図ったりするなど指導を工夫の成果がでてきている。

・数量や図形の知識理解、言語についての知識理解が全国通過率を下まわっており課題がみられる。漢字検定、計算検定等を通して基礎基本の徹底を図る必要がある。

(2)改善に向けた具体的な取組

① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 スマイル学習を中心に児童主体の協働学習を展開

算数、理科を中心にタブレットを活用したスマイル学習(予習型の協働学習)に取り組みせ、知識理解の確実な習得を図る。また、他の教科でも児童が主体となる協働学習を展開していく。個人の考えを持ちながら他の考えを交流させることを通して、より確かな考えを構築させ思考力・表現力の育成につなげていく。

2 学び方の徹底と児童の思考の流れが分かる授業づくりへの改善

杵西型授業の学習過程について全職員で共通理解を行い、全クラスに取り入れ、めあて—まとめをきちんと行うことで学び方を身に付けさせていく。その学びをノート指導にも反映させるとともに、評価を適切に行い次の学習に生かしていく。また、児童の思考の流れが分かる板書づくりを行っていくことで授業の改善を図っていく。

3 言語活動の日常化を図ることによる表現力の向上

算数科や理科を中心に学習のふり返し活動を行う。「学習を通して学んだこと」を書かせる活動を行い、学習のキーワードなどを使って書けているかを評価していくことで、学習内容の定着を図る。また、それを日記など家庭学習の課題(字数指定・キーワード指定・題名の工夫等)へと発展させていくことで思考力・表現力の向上につなげていく

② (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上研修会、学力向上委員会の実施

夏季休業中に、全国学力調査・県学習状況調査・CRTの結果の分析から、本校の課題を洗い出し、改善策について話し合う研修会を実施した。今後、学力向上委員会を中心に、学力向上タイムで取り組む発展問題の内容の検討や、表現力育成につながる言語活動の在り方を話し合い指導に活かしていく。

2 学力向上タイムの実施

クラブ・委員会のない時間を利用し、学力向上タイム(45分)を4年生以上に位置づけ、全職員で指導を行っていく。学力調査の過去問等に触れさせ、解説等も行っていく。担任(上学年)と下学年の教員でペアを作り、国語科、算数科と役割分担を行い協働して取り組むことで、学力向上に向け共通意識の醸成と指導力向上アップを図っていく。

3 家庭学習の充実

宿題の充実を図るために、家庭との連携を図る。家庭学習の手引きを配布し、課題を選択できるようにしながら自主的学習に取り組ませる。また、自主学習については、より主体的な取組を学年掲示コーナーで紹介し意欲化を図っていく。

